

第4学年道徳指導案

平成17年10月28日(金) 2校時

4年3組(男15名 女16名 計31名)

指導者 古澤 浩

- 1 主題名 目に見えないきまり(4-(1)公德心, 規則の尊重)
- 2 資料名 雨のバス降りゆう所で(出典 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の内容項目4-(1)は「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ」となっている。児童が生活する上で必要とされる公德心や社会規範を守り、それらの精神を日々の生活の中に発展させる児童を育てようとする内容項目である。これは、第1学年及び第2学年の内容項目4-(1)「みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る」を受けたものであり、さらに、第5学年及び第6学年の内容項目4-(2)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす」に発展している。

約束や社会のきまりは、人が集団の中で生活し、集団の秩序を守っていくために必要なものである。円滑な社会生活を送っていくためには、それらを守るだけでなく、その意義を捉えさせることが大切である。そのためには、公徳的なものの見方や考え方が必要になってくる。公徳とは、社会の一員として、社会のために考え行動しようとする道徳、また周りの人々に迷惑をかけずに、公共の利益を図ろうとする道徳である。公德心をもつためには、自分が多くの人によって支えられ、よりよい生活が成り立っていること、自分の行為がいつも他との関わり合いをもたざるを得ないという自覚を持たせることが必要である。しかし、児童を取り巻く現代社会には、社会全体や他人のことを考えずに、専ら個人の利害損得を優先させる風潮がある。このような社会的風潮の中であっても、児童が本来もっている人間としてよりよく生きようとする力をまひさせてはならない。

この期の児童は、きまりを守らなければならないことについておおよそ理解はしているが、なぜそうしなければいけないかはあまり深く考えていない。そこで、社会のきまりの中で、目に見えないきまり、つまり、成文化されていない人と気持ちよくくらすためのきまりがあることに気づかせ、公德を大切にすることを育てたいと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、学校の約束やきまりを「学校や児童会で決めたことだから守ろう。」と努力することが多い。しかし、毎日の学級生活の中で、順番を守って物を受け取ったり、片付けたり、教室移動をしたりするときなど、自分の都合を優先した行動をとってしまうことがある。これらの行動は、「自分一人だけなら迷惑をかけていないだろう。」という自分本意な考えからくる行動であると考えられる。

そこで、社会生活や学校生活を円滑にできるようにさせるため、目に見えないきまりがあることに気づかせ、公德を大切にすることを育てたい。

(3) 資料について

雨の日、バス停の近くのたばこ屋さんの軒下で人々はバスを待っていた。主人公のよし子は、バスが見えたので、真っ先に駆け出したが、母は、よし子を自分の場所まで連れ戻した。バスに乗っても納得のいかないよし子と、そんなよし子を知らんぷりする母。資料は、よし子が自分がしたことを考え始めるところで終わる。よし子の自分本意な考えに共感させながら、順番を守るという目に見えないきまりに気づかせ、公德を考えることを通して、公德を大切にすることを育てるのに適した資料である。

(4) 授業の構想について

「気づく」段階では、日常生活の場面を思い出させ、順番を守らないときの気持ちを考えさせ、価値への方向づけを図りたい。「深める」段階では、雨の日に出る不快さ、雨から逃れいち早くバスに乗りたいたいという主人公の心情に共感させたい。主人公の自分本意な考えを深く捉えさせるために母に連れ戻された場面では、役割演技をさせる。実感的に主人公の心情を理解させることを通して主人公の困惑と不満、自分本意な考えに一人一人の児童が迫ることができると考える。その後、主人公に何も言わない母親の横顔を見ながら、順番があったことに気づき、反省し始める主人公の気持ちを捉えさせたい。「見つめる」段階では、目に見えないきまりについて書く活動を取り入れたり、話し合いをさせたりしながら、きまりを守ることの大切さに目を向けさせたい。「まとめる」段階では、もし世の中にきまりがなくなったら、どんな世の中になるか、例を挙げて公德の大切さに気づかせていきたい。

4 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい バスに乗ろうとした時の自分本意な行動を考え始める主人公の心情をとらえ、人と気持ちよくくらすためのきまりについて考え、公德を大切にしようとする気持ちを育てる。

(2) 展開

| 段階 | 学習活動と主な発問 | 予想される児童の発言や心の動き | 指導上の留意点や支援 |
|-----------------------|---|--|---|
| <p>気づく</p> <p>8分</p> | <p>1 きまりについて考える。</p> <p>○きまりや約束を守れなかった経験を発表しましょう。</p> <p>2 資料を読んで感想を発表し、課題を立てる。</p> <p>○感想やみんなで考えたいことを発表しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お母さんの横顔を見ながら、よし子はどんなことを考えたでしょう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・早く遊びたくて廊下を走った。 ・遊びに夢中になって時間を守れなかった。 ・順番を守らないで自分勝手にした。 ・よし子はバスの順番を守らなかったのも悪いと思う。 ・よし子がお母さんの横顔を見ながら何を考えたか話したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の場面を思い出させ、きまりや約束を守れなかったときの気持ちを考えさせ、価値への方向づけを図る。 ・児童の感想をもとに、主人公の心の変化に着目させ、学習課題を立てる。 |
| <p>深める</p> <p>25分</p> | <p>3 「よし子」の気持ちの変化を中心に話し合う。</p> <p>○雨宿りをしているとき、よし子さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○雨の中へ駆け出したよし子さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○お母さんに連れ戻された時、よし子さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◎お母さんの横顔を見ながら、よし子さんはどんなことを考えたでしょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・こんな日に出かけたくない。 ・雨に濡れるのはいやだ。 ・早くバスが来ないかな。 ・やっと来た。これでぬれなくてすむ。 ・誰も並んでいないから先頭に行こう。 ・早く乗って座りたい。 ・どうして連れ戻すんだろう。 ・お母さんのせいで座れないかもしれない。 ・早く乗りたい。 ・バス停に並んでいなかったが順番があったんだ。 ・自分だけのことしか考えていなかった。 ・おかあさんに謝ろう。今度は順番を守ろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・雨の日に外出することにあまり乗り気でない主人公の気持ちに共感させたい。 ・バスが来たので、早く乗りたいという主人公の自分本意な気持ちに気づかせたい。 ・母に連れ戻されて困惑し不満をもったり、自分本意になったりした主人公の心情に役割演技を行わせることで気づかせていきたい。役割演技では、教師が母親役、児童がよし子役となり、肩をつかまれ連れ戻されたよし子の気持ちを発表させたい。 ・店の軒下において、バス停には並んでいなかったが、店の軒下にいた人々よりも後から来たことに気づかせ、順番を守っていなかったことに気づく主人公の心情を考えさせたい。 |

| | | | |
|---------------------|--|--|---|
| <p>見つめる 10分</p> | <p>4 今までの自分を振り返る。 ○学校や地域社会の中で人と気持ちよくくらすためのきまりや約束にはどんなものがあるだろう。みんなはそれらを守っていますか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 本の貸し出しで順番を守ることについては、ちゃんと守っている。 ごみを道路や公園に捨てないことについては守っていない。飲んだ後の空缶を捨ててしまったことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> プリントに書かせてから発表させ、きまりや約束を守ろうとする意欲をもたせる。 |
| <p>まとめ 2分</p> | <p>5 まとめをする。 ○先生の話をお聞きしよう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> きまりや約束がなくなったら、みんなが気持ちよくくらすことができなくなり、みんなのまとまりがなくなってしまうと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> もし世の中にきまりがなくなったら、どんな世の中になるか、例を挙げながら話し、公德に目を向けさせる。 |

6 板書計画

雨のバス停りゆう所で

絵

バスの中

雨が
見える

雨宿り

- 早くバスに乗りたい。
- 雨にぬれるのはいやだ。
- 冷たいなあ。
- 早く乗りたい。
- 座りたい。

- どうして連れ戻すのかなあ。
- 早く座りたいのに。

絵

- 先に来ていた人がいたんだ。
- 順番を守らなくてはいけない。
- 他の人のことを考えていなかった。

目に見えないきまりでも守っていこう

7 資料分析

(1) ねらい バスに乗ろうとした時の自分本意な行動を考え始める主人公の心情をとらえ、人と気持ちよくくらすためのきまりについて考え、公德を大切にしようとする気持ちを育てる。

(2) 資料名 雨のバス乗りゆう所で (出典 学研)

| | | | | |
|----------|--|---|--|--|
| 主な場面 | たばこ屋さんの軒下に並んで雨やどりをしながらバスを待っている場面 | バスが来たのですぐに駆け出し、バス停留所の先頭に並んだ場面 | バスに乗ろうとした時、母に連れ戻され、バスの座席に座れなかった場面 | 母の横顔を見ながら自分のしたことを考え始めた場面 |
| 把握すべき状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・おばさんの家に出かける日なのに朝から雨。 ・雨宿りしながらバスをまっているが、雨がどんどんふきつける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・遠くの方に小さくバスが見えた。 ・停留所の先頭に並ぶ。 ・どしゃぶりの雨がふっていた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・母に、前から6番目に連れ戻される。 ・バスの座席はあいていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・母は知らんぷりしている。 ・いつもならやさしく話しかけてくれる母がいつもとぜんぜん違う。 ・母の横顔を見ていた。 |
| 主人公の心の動き | <p style="text-align: center;">不快さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝から雨が降っているので、少しつまらなくなりました。 | <p style="text-align: center;">自分本意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに雨の中へ駆け出し、停留所の先頭に並びました。 ・母の声が聞こえたような気がしましたが、気にもしませんでした。 | <p style="text-align: center;">自分本意</p> <p style="text-align: center;">驚き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっくりして振り返りました。 ・少しじりじりした気持ちで前へ進みました。 ・「ほらごらんなさい。」というつもりで母を見上げました。 | <p style="text-align: center;">公德心</p> <p style="text-align: center;">反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんなお母さんの横顔を見ていたよし子は、自分がしたことを考え始めました。 |
| 児童の反応 | <ul style="list-style-type: none"> ・こんな日に出かけたくない。 ・雨に濡れるはいやだ。 ・早くバスに乗りたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・早くバスに乗って座りたい。 ・誰も並んでいないから、先頭に行こう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんのせいで座れないかもしれない。 ・早く乗りたいなあ。 ・どうして連れ戻すんだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・列がなくても後から来たのだから、順番を守ろう。 ・自分のことしか考えていなかった。 |
| 基本発問 | ○雨宿りをしているときよし子さんはどんな気持ちだったでしょう。 | ○雨の中へ駆け出したよし子さんはどんな気持ちだったでしょう。 | ○お母さんに連れ戻された時、よし子さんはどんな気持ちだったでしょう。 | ◎お母さんの横顔を見ながら、どんなことを考えたでしょう。 |